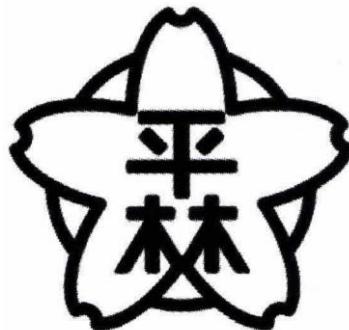


令和 6 年度

「運営に関する計画」  
最終評価



大阪市立平林小学校

令和 7 年 3 月 7 日

学校協議会



## 学校経営計画（案）

令和6年 4月 1日

大阪市立平林小学校  
校長 山口博功

### < 学校組織目標 >

自分で考え解決できる力を養い、他者を尊重し、創造性に富む人間性の育成

### < 学校運営の具体的行動手段 >

チーム学校・教科担任制・地域に開かれたカリキュラム

#### 【課題の概要と重点目標】チーム学校にもとづく組織づくりをめざす

##### ① 基本的な生活規律の確立（安全・安心な教育の推進のめあて「あいさつ」「時間」「掃除」）

あいさつや言葉遣いに重点をおいた指導 ルールを守る大切さを朝会や学級等で注意喚起

- ・朝の登校指導、あいさつ週間の指導、児童会活動「あいさつ運動」、学級での取り組み 看護当番体制や登下校見守り週間 登校時や休憩時間の過ごし方を各学級活動で徹底
- ・言葉遣いで、相手を傷つける言葉遣いが原因で、トラブルやいじめ事案につながる事例

安全・安心な指導体制 ルールを守り規範意識を育成してきた規律を持続可能にする

- ・家庭環境等で遅刻をする児童に「時間を守る」大切さの指導と「自立」を促す等の支援
- ・民生委員や区役所子育て支援室と連携を密にし、行政と協働した保護者への細かな支援
- ・「学校安心ルール」に基づき、児童理解と保護者への連絡を最優先にした指導体制

道徳の授業や人権教育の充実 命の大切さを学び、児童の自己肯定感や自尊感情を醸成

- ・たてわり班活動で高学年の持つ潜在能力とリーダーシップを発揮・相手を思いやる心

校内美化・環境整備 運動場の芝生や学習園の整備、教室環境の改善など学習環境の整備

- ・児童会「たてわり清掃」・学校を大切に思い、ものを大切に扱う気持ちを育てる

##### ② 教科等横断的な視点でカリキュラムを充実（未来を切り拓く学力・体力の向上）

児童につけたい「力」を明確に示す 教科等横断的な「独自のカリキュラム」を年間で実施

- ・情報活用能力や言語能力などの「非認知能力」として児童の持つ潜在能力を引き出す
- ・年間を通して10年先の予測困難な社会で通用する「生きて働く力」を身につけさせる

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 「できた・わかった」と実感できる授業づくり

- ・重点支援校4年目、授業支援・学力分析・研修会・S Aの支援等での授業力の向上
- ・メンター研修会の実施・学びコラボレーターの支援によるテクニカルスキルの向上

高学年への教科担任制の導入 教科担任・特別支援担当・学習サポーターによる協働体制

- ・きめ細かな指導を実施し、どの児童に対しても等しく指導ができるように連携を工夫
- ・「個別最適な学び」等、児童が安心して学習できる授業形態の工夫や環境の整備

基本的な学習習慣の定着 週2回の英語・週1回の読書タイム・漢字検定の実施

家庭学習の習慣化 毎日の宿題の習慣化と点検 学校だよりや懇談を通じて推進

年間を通じた運動能力向上のための取り組み なわとび週間・かけあし週間など

健康・衛生面の意識の向上 「手洗いがんばり週間」 給食食育指導で保護者へ啓発

##### ③ I C T機器の積極的な活用による教育DXの推進（学びを支える教育環境の充実）

学習者用端末・デジタル教科書等を活用 全校でI C T機器の充実や校内研修を進める

しなやかな組織づくり 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を増やす

- ・本市「働き方改革推進プラン」の教員の勤務時間に関する基準を満たす職場環境づくり

読書活動の充実 読書ノートの活用と「平林くんぶん」の部屋等、新聞に触れる機会の充実

- ・学期に1回の学級図書の貸出、読書推進委員会の読書ノート目標冊数の向上

さざんか平林協議会と協働してカリキュラムをつくる P T A組織のネットワークづくり

- ・保護者参加の水鉄砲大会・餅つき大会等の企画を「総合的な学習の時間」で実施

地域・行政との連携 花ボラ活動・人権の花・読み聞かせ・踊りの練習・地域清掃など

## 大阪市立平林小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

令和 6 年度学校運営の具体的行動として「チーム学校×教科担任制×地域に開かれたカリキュラム」に設定し、教職員がめざす学校組織目標「自分で考え解決できる力を養い、他者を尊重し、創造性に富む人間性の育成」、児童がめざす学校教育目標「全学年仲良く明るく楽しく、勉強も遊びも全力で取り組む学校」を掲げ、めざす学校像「夢や希望を持ち、たのしく学び、遊び、語りあえる学校」、めざす子ども像「やる気のある子」「やりとおす子」「たすけあう子」を基盤とした運営を実施する。

「生活規律の徹底」をめざし、今年度も「挨拶」「時間」「掃除」の 3 点をめあてとする。児童の課題を把握し、生活規律向上のための行動支援について工夫・深化・充実させる。

## 現状と課題

## 【安全・安心な教育の推進】

- ① 基本的な生活規律の確立のため、あいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。朝の登校指導や「あいさつ週間」の指導、児童会活動の「あいさつ運動」、各学級での取り組みにより、一人ひとりの児童に心を込めてあいさつをすることへの意識が高まり、主体的にあいさつができるようになっている。看護当番体制や登下校見守り週間を実施し、登校時や休憩時間の過ごし方の指導や看護の徹底を図る。また、言葉遣いについては、多くの子どもたちがその場にあった話し方ができるようになってきている。相手を傷つける言葉遣いが原因で、トラブルやいじめ事案につながる事例もある。今後もあいさつの励行や相手の気持ちを考えた正しい言葉遣いについては、全校朝会や学級経営を通じて、注意喚起していくことを継続的に進める。
- ② 安全・安心な学校生活を過ごすためには、ルールを守ることの大切さを丁寧に指導し、規範意識の育成に努めてきた。その結果、チャイムの合図や遊びのルール等については、多くの児童がルールを守ることができている。家庭環境等により登校時刻を守れない児童には「時間を守る」ことの大切さに触れ、児童の自立を促すなどの支援を進めていくとともに、民生委員や区役所と連携を密にし、学校と行政が協働して保護者への支援を行う必要がある。「学校安心ルール」に基づき、児童をよく理解し、保護者への連携を最優先に行いながら、規範意識を育成してきた生活規律を持続可能にする。
- ③ 「たてわり班活動」で、週 1 回の児童集会、清掃、学校行事などの特別活動に取り組むことで、異学年交流が深まり、相手を思いやる心の育成が図られている。高学年の児童の持つ潜在能力とリーダーシップが発揮できる機会を創り出す。また、道徳の時間を中心に一人一人の違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さを学ばせてきた。その結果、いじめや仲間外れについて、より深く考える児童が増えている。道徳教育や人権教育の充実を図り、命の大切さを学び、自己肯定感や自尊感情の醸成をめざす。
- ④ 運動場の芝生や学習園の整備、教室環境の改善など学習環境の整備に努めるとともに、児童が校内美化に関心を持ち、協力して学校を美しくしようとする態度を育てる。そのため、普段の清掃活動以外で児童会が主体的に「たてわり清掃」を実施している。校内美化・環境整備について、継続して行うことで、自分の学校を大切に思い、ものを大切に扱おうとする気持ちを育てる。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 学級経営の特色として、児童にどのような「力」をつけたいのかを明確に示し、教科等横断的なカリキュラムとして、教科・行事・学活など一年間を通して「独自のカリキュラム」としてプログラムを実施し、授業での思考力・判断力・表現力の習得とともに、情報活用能力や言語能力などの「非認知能力」として児童のもつ潜在能力を引き出し、児童に10年先の予測困難な社会で通用する「生きて働く力」を身につけさせる。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善や指導の工夫等の研究を行っている。本市の重点支援校4年目にあたり、授業支援・学力調査分析・研修会、メンター研修会、スクールアドバイザー・学びコラボレーターの支援等、本市や各団体主催の研修会を活用しながら、若手や教員全体の資質・能力の向上に努める。児童が「できた・わかった」と実感できる授業づくりができるよう研修のしくみを充実・発展させる。
- ③ 児童数20名前後の少人数授業の実施を「強み」として、学級担任・特別支援担当・学びサポートー・特別支援サポートーによるきめ細かな指導ができていて、「チーム学校」としての協働した授業づくりを進め、どの児童に対しても等しく指導ができるように、個別の児童の連携を工夫している。また、「個別最適な学び」を必要とする児童に対しては、安心して学習できる新たなシステムを工夫や整備していく必要がある。
- ④ 毎週の英語や読書タイム等による基本的な学習習慣の定着や教科担任制等の指導形態の工夫に努め、学習内容の充実を図っている。小学校学力経年調査においては、昨年同様、本市平均を前後する結果となり、学力に安定感が感じられる。しかし、新5年算数・新6年以外が本市平均を下回っており、繰り返し学習や習熟度別授業等を充実させる。
- ⑤ 体験的活動や言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを行うことで、興味関心を喚起させ、その中で「発表する力や書く力、集団で活動する力」を身につけさせるように取り組んできた。また、「ハンドサイン」や「話型」の発表等を活用した指導やグループ工夫を行った結果、多くの児童がしっかりと発表できるようになり、活発な発表や内容の充実が図られており、更なる工夫改善を行い充実させる。
- ⑥ 家庭学習の習慣化をめざし、毎日の宿題の習慣化と点検、保護者に学校だよりや懇談を通じて推進している。家庭で復習や他の勉強をする児童は74.2%(思う44.0%)で、その割合はまだ高いとは言えない。学校HPなどを有効活用し、保護者がより学校教育活動に関心を持ち、家庭学習の大切さに関する啓発や呼びかけを行う。
- ⑦ なわとび週間やかけあし週間、学級単位の「みんな遊び」の取り組みや「放課後の校庭開放時間の延長、遊具の改善や新たな運動用具の学級配付」など、運動能力向上のための取り組みにより、多くの児童が外へ出て身体を動かすようになってきており、健康・体力の保持増進を図る生活態度が身についている。昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において新6年男女で握力や上体起こしなど大阪市平均を上回ることができたが、50m走やシャトルランなどで課題がある。コロナ禍の影響や家庭環境等により、運動の機会が少ない児童も見られ、運動環境の整備や年間を通じた体力向上をめざし、実施時期や内容に、工夫を加えて取り組む必要がある。
- ⑧ 定期的に行う「手洗いがんばり週間」などを実施することにより、健康・衛生面の意識が向上している。栄養指導や日々の給食指導で、食への関心が高まり給食のおかずを残さず食べるようになってきた。朝食抜きの児童に対して指導し、家庭への啓発を行う。

## **【学びを支える教育環境の充実】**

- ① ICT 機器(学習者用端末・教職員用端末・大型テレビ等)・デジタル教科書などを有効活用した「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業研究を学校全体で取り組み、わかりやすい授業づくりに努めている。また、学習者用端末を活用し、毎朝の「心の天気」の入力をはじめ、デジタル教科書を用いた授業や発表ノートやグループワークを取り入れた授業、調べ学習など児童にとって必要なツールとして定着している。本年度も学習者用端末で、考えをまとめたり発表をしたりする授業場面を増やす必要がある。
- ② ゆとりの日を週 1 回設け定時退勤を促すこと、学校閉庁日を設定すること、行事の見直しや会議の精選を行うことで、長時間勤務の解消を図ってきた。本年度は、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を増やし、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準を満たす教員の割合を増やす。
- ③ 地域の図書館より、学期に 1 回の学級図書の貸し出しを行い、読書推進委員会発行の読書ノートを活用し、読書活動の充実に努めている。さらに、「平林んぶん」の部屋など新聞に触れる機会の充実に努めている。しかし、読書が楽しみな児童は 86% (思う 68%) で、読書ノートの目標とする冊数に届く児童は少なく、新聞を読む児童も全国学力・学習状況調査では全国平均を下回っている。
- ④ さざんか平林協議会と協働してカリキュラム連携を推進する。地域や行政などの社会関係資本を活用し、PTA を活性化して地域が企画する取り組みを「総合的な学習の時間」等のカリキュラムとして学校に組み込み、学校と保護者・地域・行政とのコミュニティづくりの中で、豊かな人間性と人権感覚を育む
- ⑤ 花ボラ活動・人権の花・読み聞かせ・盆踊りの練習・地域清掃活動など、保護者・地域とも連携した取り組みを行い、学校教育活動を地域・保護者に公開している。学校 HP を活用し情報発信に努めてきた結果、閲覧件数も大幅に増え、地域・保護者にも浸透しつつある。今後も一層の情報発信に努めるとともに、児童の健全育成のために行政や平林地域、こども園・保育所・隣接の小中高等学校との連携を深める。

## **中期目標**

### **【安全・安心な教育の推進】**

○よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和 7 年度末の児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目と「すすんでいさつをしている」の項目について、「守っている（どちらかといえば守っている）」と答える児童の割合とともに 90% 以上にする。

**(基本的な方向 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)**

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90% 以上にする。

**(基本的な方向 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)**

○令和 7 年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「学んでいる（どちらかといえば学んでいる）」と答える児童の割合をともに 90% 以上にする。

**(基本的な方向 2 豊かな心の育成)**

## **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることで、令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数の正答率を対全国比97%以上にする。また、令和7年度の小学校学力経年調査4教科合計を対象に、全ての学年で対市100以上になるとともに、国語・算数において2学年以上で大阪市平均またはそれを上回るようにする。  
（**基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上**）
- 漢字検定（3～6年）の合格率をともに80%以上にする。（**基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上**）
- 「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善を行い、令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「できている（どちらかといえばできている）」と答える児童の割合を85%以上にする。（**基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上**）
- 令和7年度末の児童アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を70%以上に、保護者アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上にする。（**基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上**）
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比の割合を1以上にする。（**基本的な方向5 健やかな体の育成**）
- 令和7年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答を90%以上にする。  
（**基本的な方向5 健やかな体の育成**）
- 令和7年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。（**基本的な方向5 健やかな体の育成**）

## **【学びを支える教育環境の充実】**

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和7年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。  
（**基本的な方向6 教育DXの推進**）（**基本的な方向8 生涯学習の支援**）
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。教員の勤務時間に関する基準の月45時間・年間360時間を超えない教員の割合を95%以上にする。  
（**基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり**）
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに85%以上にする。  
（**基本的な方向9 家庭・地域と連携・共同した教育の推進**）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和 6 年度末の児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目と「すすんであいさつしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をともに 85%以上にする。
- 令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 85%以上にする。
- 令和 6 年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をともに 85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 42%以上にさせる。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 62%以上にする。
- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることで、令和 6 年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数の正答率を対全国比 92%以上にする。また、令和 6 年度の小学校学力経年調査 4 教科合計を対象全ての学年で対市 98 以上にするとともに、国語・算数において 1 学年以上で大阪市平均またはそれを上回る。
- 令和 6 年度の漢字検定(3~5 年)の合格率をともに 70%以上にする。
- 「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善を行い、令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「できている（どちらかといえばできている）」と答える児童の割合を 75%以上にする。
- 令和 6 年度末の児童アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を 60%以上に、保護者アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的回答の割合を 50%以上にする。
- 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比の割合を 0.9 以上にする。

- 令和6年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和6年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を94%以上にする。
- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。
- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和6年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合をともに80%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### **【安全・安心な教育の推進】**

- 総括：全市共通目標、学校の年度目標はおおむね達成できた。
  - ・子どもファーストを基本として、不登校0名をめざし、いじめを生み出さない学校づくりに取り組んできた。そのために、「チーム学校づくり」の組織づくりとして、区役所子育て支援室・地域民生委員等との業務連携を重視しながら、学校組織体制で初動対応を徹底してきた。その結果として、17時以降および市教委へ苦情等の保護者対応が0件、不登校0名の児童の状況を示している。
  - ・2つの学年に多様な課題をもつ児童が多く在籍し、特に、年度後半に課題のある児童の対応が重なり、児童の見守り、虐待通告時の迅速な連携・対応に心がけ、特に、心の病気やDVの不安を抱える保護者の情報共有とアプローチを、子育て支援室や民生委員等と協働連携する中で、どの児童・保護者にとって安心・安全な学校づくりができたといえる。
  - ・特別支援体制づくりの中で、アセスメント（見立て）の共有に注視し、SCの専門性の有効活用をしながら、虐待の有無の確認・発達障がい・愛着障がい等、教職員や学習サポート者が児童に対して、アセスメントに基づいた同じ支援ができるように心がけてきたことも、児童の安心につながっている。11月以降に区子ども部会に集うサードプレイスの支援による実践研究にも取り組み、社会福祉士等の専門性ともジョイントすることができた。
  - ・生活指導体制として、トラブル発生時に教頭や養護教諭等の聞き取り後、保護者連絡を徹底している。保護者は初動の速さで、児童が帰宅する前に状況の把握ができ、家庭で児童と保護者が向き合うことが、学校との信頼関係づくりに大きな効果を示している。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○総括：全市共通目標、学校の年度目標はおおむね達成できた。

- ・毎日の学級活動での独自のカリキュラムや児童集会等で、パワポづくりや発表等の機会の繰り返しにより、多くの児童の言語能力や情報活用能力等の非認知能力が向上し、それらが各種の調査結果に効果をもたらし、それが将来の生きて働く力につながることを願う。
- ・個別の多様な課題をもつ児童の個性を互いに認めながら、教員の支援（伴走）のもと、教師が型にはめるとではなく、一人ひとりの児童が集団の中で学習規律を生み出しながら、友達と話合うなどの協働的な学びが実現できている。
- ・中学年・高学年の教科担任制の導入により、週の空き時間、6年16H・5年15H・4年10H・3年6Hの確保ができている。で、超過勤務の改善につながっている。また、教科担任制が与える児童への混乱空き時間に職員室での業務（教材研究・採点・行事等の計画・保護者連絡等）が可能や不安感や支障をもたらすリスクが少ないと確認できた。
- ・授業は、基本的に教科担任・特別支援担当・学習サポーターの3者が協働して授業づくりを進めている。その特徴は、同じアセスメントに基づき、適切な距離感を持ちながら寄り添った支援をすることで、児童が自分のペースで学習できるような学びが実現できている。
- ・組織の特徴は、学級担任と教科担任の業務を分離し、すべてを抱え込まない体制づくりに取り組んできた。また、学級担任の持つ能力を發揮したマネジメントにより、児童が安心して楽しく学習ができている。しかし、学年や校務分掌等によって業務量に格差があり、教職員がカリキュラムマネジメントを進めながら合意形成のもと業務改善を進めている。

## 【学びを支える教育環境の充実】

○総括：全市共通目標、学校の年度目標はおおむね達成できた。

- ・「地域に開かれたカリキュラム」をテーマに掲げ、学期に1回の土曜授業として、6月水鉄砲大会・11月防災学習・3月餅つき大会を実施した。教頭、教務主任、地域代表、はぐくみネットが企画運営をしている。これらのカリキュラムを持続可能にしていくことで、今後の地域を支える人材づくりに大きな意味をもたらすと考える。他にも、ひらこや、盆踊り練習会、ハロウィン、お茶会など、学校・地域が協働してカリキュラムマネジメントを進める中で、保護者を地域の運営スタッフに加えるなど、コミュニティづくりに大きな効果をもたらしている。地域が持つ力を学校教育と上手くジョイントできていることが、貧困や虐待の中で生きる児童や保護者の居場所づくりに、大きな役割を果たしていると、毎朝の児童の笑顔を見ながら感じている。
- ・2学期から毎週水曜日の学習者用端末の持ち帰り学習をスタートさせ、スタディサプリを活用した15分以上の家庭学習が定着している。
- ・毎日の心の天気実施率80%以上をめざした確認体制に取り組み、ようやく成果が見えてきた、今後も毎朝の実施状況を確認し、終学活までに児童の実施漏れをなくす。
- ・働き方改革として、月45時間以内の教職員が94.4%となり、学校で夜遅くまで残って業務をする学校文化が少しずつ変化している。また、時差勤務（8:15～16:45・8:45～17:15）の取得率も増加し、働きやすい職場環境が実現できている。これまでの多くを抱え込む学校文化から脱却し、学校の業務を分担して行う考え方徐々に移行してほしいと願う。

## 大阪市立平林小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75%以上にする。</li> <li>○令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 85%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> <li>○よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、令和 6 年度末の児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目と「すすんでいいさつしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をともに 85%以上にする。</li> <li>○令和 6 年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をともに 85%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣の確立に関しては、すすんでいいさつをすることができるよう学級・学年・生活だより学校 HP 等で保護者への啓発を図る。</li> <li>○あいさつ運動においては、児童会が正しいあいさつの見本を見せることで、校内の啓発を図る。また、自発的にあいさつができたかどうかの振り返りをさせることで、意識を向上させる。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和 6 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を、前年度より減少させる。</li> <li>○児童会を中心とした全校をあげた「あいさつ運動」を月 1 回以上実施し、振り返りを行う。</li> <li>○生活だよりを年 10 回以上発行したり、あいさつ運動の様子などを HP に掲載したりするなどして、基本的な生活習慣について保護者への啓発を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○思いやりの気持ちを育むために、学校行事の様々な場面において、他学年との交流を充実させる。</li> <li>○上級生が中心となり掃除の方法を教えるなどの活動を通して、社会性の育成に努める。</li> </ul>	<b>B</b>

<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○たてわり班での活動を月に 3 回以上行う。</li> <li>○道徳科の内容項目「規則の尊重」についての学習を学期に 1 回行い、ルールや決まりについての取り組みを行う。</li> <li>○学期末にペア学年で大清掃を行う。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳心や社会性を高めるために、道徳科の学習を教科横断的に取り組み、命の大切さや人権について考える機会をつくる。</li> <li>○人権・平和学習を通して、命の大切さや人権について考える時間をつくり、道徳心や社会性を高める。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>【年度目標の達成状況】(B)</b>	
○R6 経年調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」最も肯定的な「思う」の児童の割合を 75%以上にする。 結果⇒R6 84.1%(R5 72.5%)で、昨年度より 11.6 ポイント向上し、 <b>+9.1 ポイントで目標達成。</b> (A)	
○R6 末校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 結果⇒R6 0%(0/111 名) R5 1.7%(2/116 名)で、 <b>昨年度より -1.7 ポイントで目標達成。</b> (B)	
○R6 末校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 結果⇒R5 の不登校児童 2 名は 6 年生で中学校進学のため、 <b>実質目標達成。</b> (B)	
○R6 末児童校内調査「学校のきまり・規則を守っていますか」と「すすんであいさつしている」肯定的回答する児童の割合を 85%以上にする。 結果⇒「学校のきまり・規則を守っていますか」 <b>12 月 93.9%</b> で、 <b>+8.9 ポイントで目標達成。</b> (A) 「すすんであいさつしている」 <b>12 月 87.1%</b> で、 <b>+2.1 ポイントで目標達成。</b> (B)	
○R6 全国学力・学習状況調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」最も肯定的な「思う」の割合を 85%以上にする。 結果⇒4 月 82.4%(全国 79.5%・大阪府 78.0%)で、 <b>-2.6 ポイントで目標未達成。</b> (C)	
○R6 末児童校内調査「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」と「学校では命の大切さを学んでいる」肯定的回答する児童の割合を 85%以上にする。 結果⇒「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」 <b>12 月 97.4%</b> で、 <b>+12.4 ポイントで目標達成。</b> (A) 「学校では命の大切さを学んでいる」 <b>12 月 94.9%</b> で、 <b>+9.9 ポイントで目標達成。</b> (A)	

<p><b>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】について (B)</b></p> <p>児童会を中心に全学年で各 2 回ずつ「あいさつ運動」を実施し、年 14 回行った。担当学年の児童が元気よくあいさつをすることに感化され、他学年の児童も自発的なあいさつをする姿が多く見られた。そして、「あいさつ運動」についての振り返りを行うことにより、児童会のメンバーから来年度の新たな意見が出るなどあいさつへの意識が高まった。</p> <p>また、「あいさつ運動」の様子を HP で発信したり、生活だよりを年 12 回発行したりし、保護者への啓発も図ることができた。</p>	
--	--

**取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】について (B)**

年間を通して児童集会や清掃活動など、異学年交流をする機会を多く実施することができた。そして、道徳科の学習において「規則の尊重」についての学習を学期に1回行い、ルールや決まりについての取り組みを行うことができた。

**取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】について (B)**

道徳の学習を教科横断的に取り組むことで、命の大切さや人権について考える機会が増え、道徳心や社会性を高めることができた。そして児童アンケートにおける「学校では、命の大切さについて学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が94.9%と目標を達成することができた。また、「人権学習の日」を土曜参観の日に設定することで、命の大切さや人権について考える授業を学校全体で行い、保護者に啓発を図ることができた。

**次年度への改善点****取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】について**

学期に一度は「あいさつ運動」の振り返りを行い、全学年での「あいさつ運動」を引き続き行っていく。全校へ取組結果を返すような取り組みを行うことで、更なる意識の定着を図る。

**取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】について**

たて割り班での活動だけでなく、ペア学年等、異学年での活動も充実させる。

**取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】について**

異学年交流をする際に、思いやりの気持ちを大切にして接する機会にすることで、児童が自発的に交流しようとする心情を育んでいく。

## 大阪市立平林小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にさせる。</li> <li>○「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善を行い、令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる</li> <li>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 45%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 62%以上にする。</li> <li>○基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることで、令和 6 年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数の正答率を対全国比 92%以上にする。また、令和 6 年度の小学校学力経年調査 4 教科合計を対象全ての学年で対市 98 以上にするとともに、国語・算数において 1 学年以上で大阪市平均またはそれを上回る。</li> <li>○令和 6 年度の漢字検定（3～6 年）の合格率をともに 70%以上にする。</li> <li>○令和 6 年度末の児童アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上に、保護者アンケートにおける「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身についている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を 50%以上にする。</li> <li>○令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比の割合を 0.9 以上にする。</li> <li>○令和 6 年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</li> <li>○令和 6 年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科・算数科での基礎的・基本的な学習の充実を図る。</li> <li>○学習活動において、チームティーチングやグループ別学習を行い、個に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字検定の合格率を70%以上にする。</li> <li>○基本的な計算能力向上を図るため、週に1回以上は、授業や学級活動で計算を行う。</li> <li>○令和6年度の校内調査における「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動能力の向上を図り、運動の楽しさを実感させる教育活動の充実を図る。クラスで外遊びの日を設けたり、遊具・器具の使い方を工夫したりすることで運動の楽しさを実感できるようにする。</li> <li>○なわとび週間・かけ足週間を行うことで、基礎的な体力の向上を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食に関する指導の充実に取り組み、食への興味・関心を高められるようにする。</li> <li>○健康で安全な生活習慣を身につけさせる。そのために、手洗いがんばり週間のチェックカード、保健指導を通して、健康や衛生面の意識向上や正しい知識を学ばせる。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○栄養教諭による食育指導を各学年で年間2回行い、「食育だより」を年10回以上配布し、食に関する指導を行うことで、食への関心を高める。</li> <li>○令和6年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> <li>○手洗いがんばり週間を年3回行い、「保健だより」等を年10回以上配布する。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【年度目標の達成状況】(B)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○R6 経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできるか」、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にさせる。 結果⇒R6 40.5%(R5 40.0%)で、昨年より0.05向上したがー1.5点で目標未達成。(B)</li> <li>○R6 経年調査の国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる 結果⇒国語 6年ー0.03(R5 1.04⇒1.01)5年±0(R5 0.89⇒R6 0.89)4年ー0.01(0.77⇒0.76) 算数 6年ー0.16(R5 1.13⇒0.97)5年ー0.05(R5 1.14⇒R6 1.09)4年ー0.01(0.86⇒0.84) 50%市平均を超えておりが、昨年度とはどれも微差で下回り惜しくも目標未達成。(B)</li> <li>○経年調査「理科の勉強は好きですか」肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。 結果⇒R6 74.2%(R5 45.8%)で、+24.2点向上し目標達成。(A)</li> </ul>

- 経年調査「外国語の勉強は好きですか」肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。  
 結果⇒R6 83.0%(R5 70.3%)で、+15.0点向上し目標達成。(A)
- 経年調査「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62%以上にする。  
 結果⇒R6 67.9%(R5 64.3%)で、+5.9点向上し目標達成。(B)
- R6 全国学力・学習状況調査の国語・算数の正答率を対全国比92%以上にする。  
 結果⇒国語 R6 96%(R5 100%)で、+4点向上し目標達成。(B)  
 算数 R6 88%(R5 86%)で、-4点下回り目標未達成。(B)
- R6 経年調査4教科合計を対象全ての学年で対市98以上にする。※4年で目標未達成  
 結果⇒6年 101.3点 +3.3点で目標達成。(B) 5年 99.4点 +1.4点で目標達成。(B)  
 4年 94.5点 -3.5点で目標未達成。(B) 3年 101.1点 +3.1点で目標達成。(B)
- 国語・算数において1学年以上で大阪市平均またはそれを上回る。  
 結果⇒国語：3年-1.7点 4年-14.6点 5年-6.7点 6年-2.6点 全学年目標未達成。(B)  
 結果⇒算数：3年+5.1点 4年-11.6点 5年+4.6点 6年-0.8点 3・5年で目標達成。(B)
- R6 漢字検定(3~5年)の合格率をともに70%以上にする。  
 1月31日金漢字検定実施。結果⇒71.4%で、+1.4点で目標達成。(B)
- R6 経年調査「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」肯定的な回答の児童の割合を75%以上にする。  
 結果⇒70.2%で、-4.8点で目標未達成。(B)
- R6 末児童校内調査「家庭で復習や他の勉強している」肯定的回答の割合を60%以上にする。  
 結果⇒59.5%で、-0.5点で目標未達成。(B)
- R6 末保護者校内調査「家庭で復習や他の勉強をする習慣が身についている」肯定的回答の割合を50%以上にする。結果⇒83.2%で、+38.2点で目標達成。(A)
- R6 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を0.9以上にする。  
 結果⇒男子 0.95点(50.0/52.5)で、+0.05で目標達成。(B)  
 結果⇒女子 0.99点(53.7/53.9)で、+0.09で目標達成。(B)
- R6 末児童校内調査「すききらいせずに食べている」と「朝ごはんを毎日食べている」肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。  
 結果⇒「すききらいせずに食べている」85.0%で、+10.0%で目標達成。(A)  
 「朝ごはんを毎日食べている」85.0%で、+10.0%で目標達成。(A)
- R6 末児童校内調査「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」と「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けてている」肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。  
 結果⇒「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」96.6%で+16.6%で目標達成。(A)  
 「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けてている」94.0%で+14.0%で目標達成。(A)

#### 取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(B)

教科や学習内容に応じて、ペアやグループ学習を取り入れて学習することができた。2学期末アンケート「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすいですか」の項目では、7月末アンケートでは、89.8%から12月末アンケートでは、91.7%とさらに目標を上回ることができた。ペアやグループで活動することで、全体に自分の考えを発表できない児童も、友達と考えを交流することで自信をもって発表できるようになってきた。チームティーチングを取り入れた授業では、苦手な児童に寄り添い、児童の実態に応じたきめ細かい指導ができた。各クラスでの百マス計算、計算オリンピックの取り組みにより、児童の計算力が向上した。漢字検定では、71.4%の合格率を達成することができた。これらにより、児童の基礎的な学力が向上したと考える。

## 取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(B)

これまで各クラス「みんなあそび」や体育で、児童が体を動かせるような取り組みを進めてきた。「みんなあそび」では係活動を中心として、クラスのみんなが遊べるような工夫をしたり、体育では器械や遊具を使ったりして、児童が興味を持って運動できるような取り組みを行ってきた。2学期末アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか?」の項目では、89.5%と目標の80%を大きく上回った。しかし2学期は暑さもあり、なかなか外遊びができない日もあったが、なわとび週間やかけ足週間の取り組みを通して、運動の習慣化ができ休み時間に意欲的に縄跳びに取り組む児童もいた。

## 取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】(B)

食育だよりの配布や栄養教育授業を年間2回実施することができた。健康・給食委員会では、さまざまな取り組みを進めてきた。給食習慣の呼びかけ、給食クイズの取り組みなどを通して、児童の食への関心を高めることができた。児童アンケート「すききらいせずに食べている」では、75%以上の目標に対して10%以上上回ることができた。また、「朝ごはんを毎日食べている」のアンケート項目でも、85.0%と7月よりも少し高まった。

手洗いがんばり週間では、自分の手洗いについて振り返りを行ったり、せいけつ検査を実施して結果を全体に伝えたりすることで、手洗いに关心をもち、進んで取り組もうとする気持ちを育てることができた。

### 次年度への改善点

## 取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

百マス計算や計算オリンピックを取り組んだが、基礎的な学力（計算、漢字、語彙など）をさらに確かなものにする必要がある。基礎的な学力が充実することにより深い課題にチャレンジすることができると考える。

## 取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

外に出て進んで遊ぶ児童が少ない理由の一つとして一人一台端末を使ってゲームをしている児童が多いように感じる。「体を動かすことが楽しい」「運動が楽しい」と思えるような取り組みを進めていく必要がある。

## 取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

朝ごはんやハンカチなどの持ち物に関しては、家庭での協力が必要になるので、学校だよりや学年だよりで引き続き呼びかけていく必要がある。

(様式 2)

## 大阪市立平林小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。 学習者用端末を活用した家庭学習を週 1 回実施する。 協働学習支援ツールを用いた学習を週 1 回実施する。</li> <li>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 94%以上にする。 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 94%以上にする。</li> <li>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 94%以上にする。教員の勤務時間に関する基準の月 45 時間・年間 360 時間を超えない教員の割合を 94%以上にする。</li> <li>○体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT 機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、令和 6 年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を 80%以上にする。</li> <li>○令和 6 年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合をともに 80%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を分かりやすくするため、学習活動での ICT 機器の有効活用を図る。</li> <li>○デジタルドリルの定期的な活用を図り、各教科の学習内容の習熟を深める。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT 機器を利用した授業を週 3 回以上行い、令和 6 年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</li> <li>○学習者用端末を家庭に持ち帰ったときや、学習中に生じた隙間時間にデジタルドリルを週 1 回以上活用して、各教科の習熟を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○業務を分担して円滑に進められるように取り組み、ゆとりの日を活用するなど、時間外勤務を減らす。</li> <li>○校内研修を年間 5 本以上行い、教職員の指導力の育成を図る。</li> <li>○週に 1 度、ゆとりの日に定時退勤を心掛け健全なワークライフバランスをとる。</li> <li>○令和 6 年度末の教職員アンケートにおける、「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を 70%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>

### 取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】

- 図書館の有効活用を図り、休み時間に実施している図書館開放を継続して行う。
- 図書室や「平林んぶん」の部屋の利用を促し、図書室の本や新聞に触れ合う機会を増やす。
- 体験的学習や外部人材の積極的活用を行い本物に触れる機会を増やす。

#### 指標

- 「読書ノート」を活用し、1~4年生は年間100冊以上、5・6年生は年間50冊以上の達成者の数を、20人以上にする。
- 委員会活動による本や新聞を活用した取り組みを行い、本や新聞に触れ合う機会を学期に1回以上行う。
- 外部人材を活用した授業を、学年で年1回以上行う。

B

### 取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】

- 学校だよりや学校ホームページを積極的に活用し、学校生活の様子を発信していくことで、家庭と学校の連携を深める。
- 地域と保護者を交えた学校行事を行い、地域と家庭の連携を深める。

#### 指標

- 各学年、月1回は学校HPに記事をアップする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 学期に1回以上、地域や保護者を交えた学校行事を行う。

B

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【年度目標の達成状況】(B)

- 授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕  
結果⇒年間4月～1月 **49.0%(78/159)**で**目標未達成**。(C)  
参考：後期10月～1月 **70.6%(65/92)** (B)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。  
結果⇒**94.4%(17/18名)**で**目標達成**。(A)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を94%以上にする。  
結果⇒月45時間以内 **94.4%(17/18名)**で、**目標達成**。(A)  
年間360時間以内 **83.3%(15/18名)**で、**目標未達成**。(B)
- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。  
結果⇒週1回実施率 **86.0%(9月)**で、**目標達成**。(B)
- R6末児童校内調査「学校の授業はわかりやすい」と「学校での読書を楽しみにしている」肯定的回答の割合を80%以上にする。  
結果⇒「学校の授業はわかりやすい」**91.6%**で、**+11.6点**で、**目標達成**。(A)  
「学校での読書を楽しみにしている」**79.6%**で、**-0.4点**で**目標未達成**。(B)
- R6末の保護者校内調査「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」と「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」肯定的に回答する保護者の割合とともに80%以上にする。  
結果⇒「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」**95.6%**で、**+15.6点**で**目標達成**。(A)  
「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」**98.6%**で、**+18.6点**で**目標達成**。(A)

### **取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 (B)**

学習者用端末を毎週水曜日に持ち帰らせ、スタディサプリを課題として提出してきた。スタディサプリの使用状況は大阪市平均を上回り、児童に ICT 機器を使っての学習の習慣が身についたといえる。課題が早く終わった児童にはドリルを課すことで個別最適学習を行うことができた。学習の振り返りを大切にすることで「学校の授業は分かりやすい」の項目では、90%を超えることができた。また、心の天気も 3 学期からは一日の活用率が 75%を超えることになった。

### **取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 (B)**

ゆとりの日を週に 1 回設けることで、時間外勤務削減への意識付けができるており、ほとんどの職員が 45 時間未満となった。また、校内研修は、「ICT 機器活用研修」「不祥事撲滅研修」などを行い、「総合的読解力研修」も行った。「校内研修は充実していたと思うか」の項目では、80%を達成した。しかしながら、当初は校内研修で全員が参加できていないことがあったが、全員が参加できるように予定をしっかりと周知することで、2 学期末からの研修は全員が参加することができた。

### **取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 (B)**

図書新聞委員会がお昼休みに図書室を開放することで、子どもたちはいつでも本に触れられる環境を整えた。また、給食の時には、図書室の本を紹介したりクイズを出したりして、興味が高まるような取り組みも行った。水曜日には図書館司書の方が来てくれて、児童に本の紹介などをしてくれた。しかし、読書ノートの記入を細かく確認することが難しかったので、次年度は、進捗状況を定期的に把握する必要がある。

地域の会館で育てている「サクランボ」「ビワ」の収穫体験、田植え・稲刈り体験など、地域を交えた取り組みを行った。また、「防災訓練」「もちつき大会」など地域と保護者を交えた行事も行うことができた。

### **取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】 (B)**

ホームページでは、行事や給食の献立など、学校の様子が分かる記事をアップしてきた。特に、ミマモルメのメール配信と組み合わせることで、保護者や地域に学校の情報をくまなく発信することができた。さらに各担当も発信することで、保護者はより多くの学校の様子を知ることができたと思われる。「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目では 95%以上を達成した。

学期に一回、土曜授業を行うことで、地域や保護者を交えた行事を行うことができた。また、地域と密に連携することで、多くの取り組みを行うことができた。

#### **次年度への改善点**

### **取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】**

スタディサプリの活用率は大阪市平均を上回っているが、児童の取り組み方を変える必要がある。児童のなかには問題を読まずにラジオボタンをタップして解答する児童もいる。しっかりと動画を見て、復習に役立てるような取り組み方を考えなければならない。家庭学習ではなく、授業中に行うのも一つの手である。学校の休み時間にゲームをすることは良いのかどうか、ルール作りを行う必要がある。

### **取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】**

研修は計画通りに行うことができたが、参加率が低いことが課題として挙げられる。長期休業中は、教育センターや外部団体の研修も集中するため、校内研修の時期の見直しを行う必要がある。子どもたちに学力として定着させていくという意識で研修に臨む必要がある。

時間外勤務については、少しずつではあるが減少してきている。しかし、そもそも業務が減っていないので、結局家に持ち帰って業務を行うことになり、時間外勤務の減少にどのような意味があるのか分からぬ。

### **取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】**

読書ノートの活動を行うのであれば、細かな頻度で確認を行うべきである。その進み具合をクラスにおいて共有することで、本を読もうとする動機付けが生まれると考える。「平林んぶん」を活用するのであれば、しっかりと取り組みが必要である。

多くの地域との行事があるが、授業時間数の削減もあるので、しっかりと精選したいところである。

### **取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】**

校外学習や出前授業などの行事は簡単でよいので内容を HP に載せるべきである。写真に関しては昨今の情勢を考えると無理に乗せる必要はないと考える。

土曜授業の内容や時期を見直し、より保護者が参加しやすい形にするべきである。